

原著論文

## ティーチャートレーニングをベースとしたワークショップによる 保育士・幼稚園教諭の子どもの問題への対応に関する悩み等の変化

岩永竜一郎<sup>1) 5)</sup> 徳永 瑛子<sup>1) 5)</sup> 吉田 ゆり<sup>2) 5)</sup> 田山 淳<sup>2) 4)</sup>  
田中 悟郎<sup>1) 5)</sup> 今村 明<sup>3) 5)</sup> 調 漸<sup>4) 5)</sup>

**要旨：**幼稚園，保育園の教諭・保育士にティーチャートレーニングをアレンジして，大人数を対象としたワークショップを実施し，それによる子どもの問題などへの悩みの変化を検証した。

参加者にはワークショップの開始前と終了1週間後に「発達障害児が示す様々な行動の問題や発達障害児の保護者への対応に関する悩みの有無についての質問」と精神健康度をとらえるK6に回答してもらった。参加者で，ワークショップ前と1週間後に質問紙への回答をした70名の教諭・保育士のスコアを分析した。

その結果，発達障害児の保護者への対応，発達障害に関する知識，行動面の問題が見られる児や自閉スペクトラム症児への支援などに関する項目のスコアが改善した。

キーワード：発達障害，ティーチャートレーニング，保育園，幼稚園

### はじめに

文部科学省によると学習面，行動面，対人関係などの問題があり，特別な支援が必要な児童生徒が通常学級内に約6.5%存在することが明らかになっている。幼児では，鳥取県における5歳児健診では，9.6%の受診児に発達障害または知的障害が疑われたことがわかっている<sup>1)</sup>。日本保育会の調査によると調査に回答した保育園の92.7%

は発達面が「気になる子」がいると回答しており，その内訳は「発達上の問題（「発達の遅れ」，「言語」「理解力」など），「コミュニケーション（「やりとり」「視線」「集団参加」など），「落ち着き（「多動」「落ち着きのなさ」「集中力」など），「情緒面（「乱暴」「こだわり」「感情のコントロール」など），「運動面（「ぎこちなさ」「不器用」など）」<sup>2)</sup>の順に多くなっている。同調査で気になる子の保育の現状では，「大変むずかしい」と「ややむずかしい」の合計割合が7割前後となっている<sup>2)</sup>。中島らによると保育園に発達面が気になる子どもが5.4%存在することがわかっている<sup>3)</sup>。よって，幼児期においても保育園に発達障害のある子どもが多く在籍し，多くの職員がその対応に悩んでいると言

1) 長崎大学生命医科学域

2) 長崎大学教育学部

3) 長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

4) 長崎大学 学長特別補佐

5) 長崎大学子どもの心の医療・教育センター

える。

このようなことから、学校では発達障害児等に対し特別支援教育が実施されているが、幼児期においても幼稚園、保育園などでの発達障害などがある子どもへの特別な支援を実施する必要がある。幼児期に子どもたちが示す問題の中で、行動の問題は多くに見られる。多動・衝動性、落ち着きのなさなどの行動の問題が目立つ注意欠如・多動症（ADHD）の有症率は、メタ分析において7.2%と算出されている<sup>4)</sup>。

ADHDのある子どもの親へのトレーニングとして、ペアレントトレーニングがある<sup>5)</sup>。子どもの行動マネジメントスキルに関するペアレントトレーニングは問題行動とADHD徴候のコントロールに効果がある<sup>6)</sup>ことがわかっている。

行動面の問題がある子どもへの支援は、教諭や保育士の精神的健康を保つためにも重要である。子どもの問題行動は教師の仕事量を増やし、ストレス感情につながる可能性も指摘されている<sup>7)</sup>ことから、子どもの行動の問題は教諭や保育士の精神的健康度に大きな影響を与えられ考えられる。

ペアレントトレーニングと同様にそれを教師用にアレンジしたティーチャートレーニング<sup>8)</sup>もその効果が示されている。ティーチャートレーニングによって教諭、保育士が子どもに対して、効果的な支援ができれば、子ども、教諭・保育士両者に恩恵がある可能性がある。社会的、情緒的に有能な幼稚園教諭は子どもとのポジティブな関係を作り、静かで構造化された学習環境を提供し、彼らの行動の問題を減らすことを含め、社会情緒スキルにポジティブな影響を与えることができる<sup>7)</sup>とされている。ティーチャートレーニングを実施できると保育園や幼稚園での子どもの行動の改善につなげられる可能性がある。

しかしながら、ティーチャートレーニングは、1グループの参加者が6-7名、5-6回のシリーズで実施されるプログラムとなっている<sup>8)9)</sup>。そのため、ティーチャートレーニングを受けられる

保育士、教諭は数が少ない上、多くの時間が必要とされる。1回のワークショップで、ティーチャートレーニングがより多くの保育士、教諭に短時間で提供できると理想的であるが、これまでそのような方法を実施し、効果を示した報告はない。

そこで、本研究では、ティーチャートレーニングの一部を大人数を対象とした単発のワークショップで実施し、それによる保育士や幼稚園教諭の子どもへの対応に関する悩みの変化を検証した。

## 方 法

### 1. 対象

長崎県こども未来課から、長崎県内の幼稚園、認定こども園、保育園、教育委員会や市町の子育てや健康保健等に係る行政機関などに本ワークショップの開催を概要と共に通知し、希望者は同課に参加申し込みをした。ワークショップは長崎市、佐世保市、諫早市の県内3か所で実施した。それらのワークショップに参加した保育士、幼稚園教諭、保育教諭を対象とした。

### 2. プログラム内容

対象者にワークショップを実施した。ワークショップは第1著者が行った。第2著者がサポート役として参加し対象者から質問があれば応じた。

ワークショップのプログラム内容は次のとおりである。

- ①子どもの行動の分類（1回目）の演習：担当児童の「望ましい行動」、「望ましくない行動」、「許しがたい行動」を分類し、表に整理してもらった。
- ②発達障害の特性に関する講義
- ③発達のとらえと目標シートによる演習：言語面、認知面、行動、対人関係、情緒の各領域に関する項目（表1）について教諭・保育士が担当児童について「はい-○」、「多少-△」、「いいえ-×」のいずれかの回答をしてもらい、それぞれの領域

の発達状況を考えてもらった。次に問題が見られる領域において、子どもに適した目標を考えてもらった。そして、目標を達成可能なスモールステップにするために立てた目標の3分の1程度の達成度となる「3分の1目標」を立ててもらった。例えば、「お集まりに最初から最後まで参加する」という目標がある場合に「お集まりの最初のご挨拶と最後のご挨拶のところは着席する」などの教諭が掲げる目標のスモールステップとなる小さな目標を立ててもらった。これらはいずれもグループでディスカッションしてもらいながら、進めてもらった。

④子どものいいところ探し+子どもの行動の分類(2回目)。子どものいいところを再度考え直してもらい、①と同様の内容を実施してもらった。

⑤誉めることリストの作成：③で挙げた3分の1目標、④で挙げた子どもの「好ましい行動」を参照にして、5-6個の誉めることを挙げてもらい、「誉めることリスト」に記載してもらった。

⑥行動を誉める実践：ワークショップ終了後に誉めることリストを持ち返してもらい、誉めることリストに書いた「誉めること」に対する誉める対応ができれば、チェックをする対応を、1週間の子どもへのかかわりの中で実施してもらった。

### 3. 実施方法

4-5名の教諭、保育士などによるグループを作り、グループディスカッションを通して前述のプログラムを実施した。実施時間は約3時間であった。

ワークショップ開始前とワークショップ終了から1週間後に調査票に回答してもらった。ワークショップ開始前の調査票はワークショップ時に、ワークショップ終了後の質問紙は、各参加者に持ち返してもらい、5日間の誉める対応を続けた後に記入及び郵送での返送をもらった。調査票は無記名であったが、開始前の調査票と終了後の調査票には、同一の番号を付し、同一回答者の前

後のデータが比較できるようにした。

### 4. 調査内容

ワークショップ前後に次の2つの調査票に回答してもらった。

・著者が作成した調査票(付録)：発達障害児が示す様々な行動の問題や発達障害児の保護者への対応に関する悩みの有無についての質問項目20項目を作成した。項目作成において、包括的に子どもの問題への対応の悩みを評価できるように発達障害に関する知識に関する1項目(項目4)、ADHD児に見られやすい行動に関する5項目(項目5~9)、自閉スペクトラム症(ASD児)に見られやすい問題に関する5項目(項目10~14)、情緒の問題に関する2項目(項目15,16)、日常生活行動に関する2項目(項目17,18)、感覚運動に関する2項目(項目19,20)、発達障害児の保護者への対応に関する3項目(項目1~3)を作成した。項目作成において武市ら<sup>10)</sup>が保育園入所前の広汎性発達障害児やADHD児に関する特徴を示した研究を参照したが、項目の内容は独自に作成した。

被験者は、「全く悩んでない」~「非常に悩んでいる」の4件法で回答する。該当する問題を持つてのいる子どもがクラスにいない場合は「そのような子どもはクラスにいない」に回答することとした。

・K6<sup>11)</sup>：対象者の抑うつの評価として、Kessler et al.(2003)により開発された尺度であるK6の日本語版<sup>12)13)</sup>を用いた。K6は6項目・5件法の尺度であり、0~24点(高得点ほどうつ傾向や不安感が強い)で評価される。

### 5. 分析方法

著者が作成した調査票(付録)とK6のスコアについてワークショップ前と1週間後の差をWilcoxon検定により分析した。

## 結 果

ワークショップの参加者は174名であった。

この中で2回目のアンケートを返送したのは90名(51.7%)であった。学校教師が6名、その他(行政関係など)が9名、5名は管理職であったため除外した。そのため、70名の幼稚園教諭又は保育士が対象となった。そのため、これら70名の回答を分析した。分析対象の対象者は1名が男性、69名が女性、職種は幼稚園教諭が10名、保育教諭が20名、保育士が40名、担当児童は0-2歳児担当が26名、3-5歳担当が44名であった。

表2には質問項目へのワークショップ前の回答とワークショップ1週間後(5日間実施後)の回答の差のWilcoxon検定による統計解析の結果を示した。

表1. 参加者の内訳

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 性別 | 男性    | 1名  |
|    | 女性    | 69名 |
| 年齢 | 20歳台  | 20名 |
|    | 30歳台  | 14名 |
|    | 40歳台  | 16名 |
|    | 50歳台  | 20名 |
| 職種 | 保育士   | 40名 |
|    | 幼稚園教諭 | 10名 |
|    | 保育教諭  | 20名 |

## 考 察

表1のように「発達障害のある子どもの保護者への話の仕方や対応方法がわからないため悩んでいる」、「発達障害のある子どもの保護者の要望に応えきれず悩んでいる」への回答に有意差が認められたことから、発達障害児の保護者への対応への意識の変化が見られたことが推察される。ワー

クショップの中で、保護者への対応について説明があったことや発達障害のある子どもへの対応方法を演習で修得できたことが教諭・保育教諭の保護者対応への意識を変容させたと考えられる。

「自閉症やADHDなどの発達障害に関する知識はどのくらいありますか」の回答が有意に改善したことから、ワークショップの中での発達障害に関する説明に加え演習の中での「発達のとらえと目標シート」を用いた演習が発達障害の理解を促したと推察される。

「落ち着きがない子どもへの対応で悩んでいる」、「あまり考えずに衝動的に行動する子どもへの対応で悩んでいる」、「カッとなりやすい子どもへの対応で悩んでいる」、「わかっているのに指示に従わない子どもへの対応で悩んでいる」などのスコアに改善が見られたことから、行動面の問題が見られる子どもへの対応に何らかの変化があった可能性がある。演習において、行動のとらえ方、良い行動に注目することなどを演習で習得してもらったことで、行動の問題への対応方法に改善が見られたと推察される。

「他の人の気持ちがわからない子どもへの対応で悩んでいる」、「他の子どもとの関わりが上手くできない子どもへの対応で悩んでいる」、「言葉の発達が遅い子どもへの対応で悩んでいる」、「こだわりが強い子どもへの対応で悩んでいる」、「偏食など食事の問題がある子どもへの対応で悩んでいる」などの回答に改善が見られたことから、ASDの特性がある子どもへの支援においても対応に何らかの変化があった可能性がある。子どもの発達状態を的確にとらえ、目標を子どもの発達に合わせたり、スモールステップを重視したかわりを行ったり、子どもが応じやすい声掛けなどが本ワークショップで修得されたものと考えられる。

これまで、ティーチャートレーニングは、5~6回のセッションを実施する形式のものがあった<sup>8) 9)</sup>。しかしながら、本研究では一回のワークショップで、幼稚園教諭や保育教諭の子どもへの関わりにおけ

表2. 子どもや保護者への対応に関する悩みとK6のワークショップ前後のスコアの比較

| 質問項目                                      | N  | Z     | P      |
|---|----|-------|--------|
| 1. 発達障害のある子どもの保護者への話の仕方や対応方法がわからないため悩んでいる | 47 | 2.676 | 0.007  |
| 2. 発達障害のある子どもの保護者の要望に応えきれず悩んでいる           | 47 | 2.012 | 0.044  |
| 3. 発達障害の可能性のある子どもがいるがそれを保護者に言えず悩んでいる      | 52 | 1.792 | 0.073  |
| 4. 自閉症や ADHD などの発達障害に関する知識はどのくらいありますか     | 69 | 3.214 | 0.001  |
| 5. 落ち着きがない子どもへの対応で悩んでいる                   | 66 | 2.516 | 0.012  |
| 6. あまり考えずに衝動的に行動する子どもへの対応で悩んでいる           | 62 | 2.767 | 0.006  |
| 7. カツとなりやすい子どもへの対応で悩んでいる                  | 58 | 3.273 | 0.001  |
| 8. すぐにケンカをする子どもへの対応で悩んでいる                 | 60 | 1.899 | 0.058  |
| 9. わかっているのに指示に従わない子どもへの対応で悩んでいる           | 62 | 2.508 | 0.012  |
| 10. 他の人の気持ちがわからない子どもへの対応で悩んでいる            | 59 | 2.806 | 0.005  |
| 11. 他の子どもとの関わりが上手くできない子どもへの対応で悩んでいる       | 60 | 2.600 | 0.009  |
| 12. 行事に参加できない子どもへの対応で悩んでいる                | 50 | 1.773 | 0.076  |
| 13. 言葉の発達が遅い子どもへの対応で悩んでいる                 | 53 | 2.480 | 0.013  |
| 14. こだわりが強い子どもへの対応で悩んでいる                  | 54 | 3.319 | <0.001 |
| 15. ぐずったり、すぐに泣いたりするなど情緒が不安定な子どもへの対応で悩んでいる | 52 | 1.628 | 0.104  |
| 16. 過度に怖がる子どもへの対応で悩んでいる                   | 39 | 1.334 | 0.182  |
| 17. 排泄の問題がある子どもへの対応で悩んでいる                 | 37 | 1.468 | 0.142  |
| 18. 偏食など食事の問題がある子どもへの対応で悩んでいる             | 52 | 2.552 | 0.011  |
| 19. 感覚が過敏すぎる子どもへの対応で悩んでいる                 | 34 | 1.530 | 0.126  |
| 20. 不器用で運動が苦手な子どもへの対応で悩んでいる               | 46 | 0.913 | 0.361  |
| K6-精神健康度                                  | 70 | 0.296 | 0.767  |

る悩みが改善することが示された。ティーチャートレーニングを実施する場合には、少人数での繰り返しセッションが必要になるが、本研究で実施したプログラムは、一回のワークショップで、多数を対象とした取り組みが可能であり、ティーチャートレーニングの要素を多くの教諭等に活用してもらう

ために効果的な一つ的手段であると考えられる。

本研究では、ワークショップ終了1週間後（5日間実施後）までのデータしか収集していないためにワークショップの長期的な効果は検証できていない。そのため、今後、本研究で実施したワークショップの長期的な効果の持続についても検証

する必要がある。

### 謝 辞

本研究は、長崎県子ども未来課が文部科学省から委託された「幼稚園の人材確保支援事業」の研究の再委託を受けて実施した。

### 文 献

- 1) 小枝達也編:5歳児健診. 診断と治療社. 2008
- 2) 日本保育会:平成27年度保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態, 障害児保育等のその支援内容, 居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書. 2016
- 3) 中島正夫, 竹尾晃子, 谷野亜美:保育所に通う発達障害を持つ子ども・「気になる子ども」の状況について. 椋山女学園大学教育学紀要. 5:69-80, 2012
- 4) Thomas R, Sanders S, Doust J, Beller E, Glasziou P. :Prevalence of attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis. *Pediatrics*. 135(4):e994-1001. 2015
- 5) 岩坂英巳編:困っている子をほめて育てるペアレント・トレーニングガイドブック. じほう. 2012
- 6) Chorpita BF, Daleiden EL, Ebesutani C, et al. Evidence-based treatments for children and adolescents: An updated review of indicators of efficacy and effectiveness. *Clin Psychol: Sci Pract*. 2011;18:154-172
- 7) Friedman-Krauss AH, Raver CC, Neuspiel JM, Kinsel J. Child Behavior Problems, Teacher Executive Functions, and Teacher Stress in Head Start Classrooms. *Early Educ Dev*. 25(5):681-702. 2014
- 8) 河内美恵, 楠田絵美, 福田英子, 上林靖子:保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング: 発達障害のある子への効果的な対応を学ぶ. 東京. 中央法規出版. 2016
- 9) 大西貴子, 武藤葉子, 小枝久美子, 岩坂英巳:ティーチャー・トレーニング・プログラムによる保育者支援に関する研究(第2報) 事例を通じた発達特性の違いによる効果の検討. 次世代教員養成センター研究紀要. 2: 137-145, 2016
- 10) 武市敏孝: 保育所入所前の高機能広汎性発達障害児, 注意欠陥/多動性障害児と軽度知的障害児の行動特徴. *小児の精神と神経*, 46(2):85-93, 2006
- 11) Kessler RC, Barker PR, Colpe LJ, et al. Screening for serious mental illness in the general population. *Arch Gen Psychiatry*. 60:184-9. 2003
- 12) 古川壽亮, 大野裕, 宇田英典, 中根允文:一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究. 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)研究協力報告書心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究. 2002.
- 13) Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, et al. The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *Int J Methods Psychiatr Res*. 17:152-8. 2008

Change of worry about childcare in kindergarten teachers after workshop  
using the Teacher Training method

Ryoichiro Iwanaga<sup>1)5)</sup> Akiko Tokunaga<sup>1)5)</sup> Yuri Yoshida<sup>2)5)</sup> Jun Tayama<sup>2)4)</sup>  
Goro Tanaka<sup>1)5)</sup> Akira Imamura<sup>3)5)</sup> Susumu Shirabe<sup>4)5)</sup>

- 1) Nagasaki University, Institute of Biomedical Sciences
- 2) Faculty of Education, Nagasaki University
- 3) Child and Adolescent Psychiatry Community Partnership Unit, Nagasaki University Hospital
- 4) Executive Advisor to the President, Nagasaki University
- 5) Center for Child Mental Health Care and Education, Nagasaki University

Abstract

We examined the changes worries for childcare in kindergarten teachers and childcare workers after workshop based on the Teacher Training method.

Participants were asked to reply to a K6 and child management questionnaire about difficulties with management of children with developmental disorders and communication with parents just before and one week after the workshop.

We compared the data of 70 participants from before and after the workshop, and result showed significant differences in scores of knowledge of developmental disabilities, difficulties in consultations with parents and difficulties with management of children with behavior problems and with autism spectrum disorders from before and one week later the workshop.

Key Words: developmental disorder, teacher's training, nursery school, kindergarten

## 付録

発達障害児が示す様々な行動の問題や発達障害児の保護者への対応に関する悩みの有無についての質問票

1. 発達障害のある子どもの保護者への話の仕方や対応方法がわからないため悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

2. 発達障害のある子どもの保護者の要望に応えきれず悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

3. 発達障害の可能性のある子どもがいるがそれを保護者に言えず悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

4. 自閉症や ADHD などの発達障害に関する知識はどのくらいありますか

- ①全く知らない ②名前は聞いたことがあるがよくわからない ③少しだけ知っている  
④知っている ⑤よく知っている

5. 落ち着きがない子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる  
④悩んでいる ⑤非常に悩んでいる

6. あまり考えずに衝動的に行動する子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

7. カツとなりやすい子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

8. すぐにケンカをする子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

9. わかっているのに指示に従わない子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

10. 他の人の気持ちがわからない子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

11. 他の子どもとの関わりが上手くできない子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

12. 行事に参加できない子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

13. 言葉の発達が遅い子どもへの対応で悩んでいる

- ①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

14. こだわりが強い子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

15. ぐずったり、すぐに泣いたりするなど情緒が不安定な子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

16. 過度に怖がる子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

17. 排泄の問題がある子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

18. 偏食など食事の問題がある子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

19. 感覚が過敏すぎる子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる

20. 不器用で運動が苦手な子どもへの対応で悩んでいる

①そのような子どもはクラスにいない ②全く悩んでない ③少し悩んでいる ④悩んでいる  
⑤非常に悩んでいる